



チンパンジーたちのお誕生日

少し前の話題になりますが、年が明けるとチンパンジー達のお誕生日が続々とやってきます。

まずは1月5日に「イチゴ」ちゃんが16歳になりました！1月6日にはお誕生日会を開催。

毎年恒例となっている特製ケーキをプレゼントし、集まって頂いた方々と一緒にお祝いしました。



特製ケーキ

好きなものを一通り食べると、赤い袋のプレゼントをもって取られないように移動。袋は運動場内に生えていた草ですぐに取れるように結んだのですが、あまり器用でないイチゴちゃんは残念ながら開けられず…中身はマツコのものとなりました…



ケーキにかぶりつくイチゴちゃん



プレゼントを抱えていくも開けられず…

続いて1月20日には「フク」ちゃんが12歳になりました！1月21日にお誕生日会を予定していたのですが、まさかの雪混じりの雨が降り気温も低く、さらに荒天の予報により休園…来園者の方々と一緒にお祝いすることは残念ながらできませんでした。

代わりとして、夕方寝室にて職員でお祝いをしました！



プレゼントの中身を吟味

ただ、寝室には同居人のヨウちゃんがあり、夜ごはんも同時に用意してありました。そのため、あれもこれもといった感じで特製ケーキを集中して食べる様子は見られなかったのですが、口いっぱい頬張っていたので満足してくれたはず！



別の日、ゾウ担当からおすそ分けしてもらったサトウキビを豪快に食べるフク

他にもゴヒチ、ヨウ、マツコは野生由来のためはっきりした年齢と誕生日は分かっていないため、1月1日に1歳年を重ねるようにしています。推定ですがヨウは53歳、ゴヒチとマツコは46歳になりました。チンパンジーとしては高齢になってきましたが、複雑な幼少期を過ごしてきたこの3頭にはこの先も元気に穏やかに過ごしてもらいたいと思っています。



ヨウ



ゴヒチ



マツコ

(花粉症が辛いチンパンジー担当 おおぐり)

2024年2月18日

世界のカバ

毎年2月15日は「世界カバの日」となっています。

由来などの詳細は不明なのですが、せっかくなのでカバについて知ってもらおう！ということで当園で飼育している個体のみでなく「世界のカバ」について今回は書いていこうと思います。

皆さんは「コカインカバ」という言葉を知っていますか？

カバの生息地がアフリカだということは知っている方も多いかと思います。



(アフリカの河川で休むカバ)

しかしそのカバたちが遠く離れた南米のコロンビア近辺で目撃されるようになってきました。

理由は「麻薬王」として名をはせた人物が、個人的にコレクションとして動物を集めていて、その中にいたカバが繁殖したからです。

その「麻薬王」から「コカインカバ」という、ありがたくない異名がつくことになりました。

その当時は私有地の牧場にオス1頭、メス3頭の計4頭のカバが飼育されていたのですが「麻薬王」と言われる人物が1993年に亡くなったことにより、飼育されていたカバを管理する人もいなくなり、そこから増殖したと言われています。

カバはとても繁殖力が強い動物でもあり、当園で飼育されていたカバ(バシャン)も14頭出産をしたことがあります。体が大きい割に妊娠期間が240日と短く、現地では天敵となる動物があまりいないことから数が増えたものと思われます。

現地でも避妊薬を与えることにより生息数を徐々に減らす取り組みを行ってきましたが、現在でも100頭以上ものカバがコロンビアで生息しています。

またコレクションされていた他の種の動物たちは他の施設などに移動できたのですが、体が大きく気性が荒いカバのみが現地で大量に繁殖したという流れです。

カバが増えるといけないの？

アフリカでは絶滅危惧種にもなっているカバ。

アフリカの都市開発などが進み、生息地が減少したためレッドリストにも記載されているのでカバが増えると喜ぶ方もいらっしゃると思うのですが、そうもいきません。

元の生息地のアフリカではなく、南米で増えるということは元来南米に生息しているマナティや多くの魚類などの水生生物の生息数の減少に拍車をかけることとなります。

アフリカに戻せないの？

「じゃあ増えたカバをアフリカに戻せばいいんじゃないのか？」と思う方もいるかもしれませんが、

しかしコロンビアで生活していたカバをアフリカに移動させることにより、アフリカで従来生息している生態系などを崩すことが懸念されており、アフリカに移動することもできずに他の施設への移動が検討されています。

ニュースで以前話題になったこともあります。このままでは2035年には1000頭を超えるのではないかと唱える専門家もおり、コロンビア政府も他の施設への移動を検討しており、カバを移動するのにかかる予算は約350万ドル(当時約4億6600万円)の経費が掛かる見通しとなっており、それでも生息している全頭を移動できるわけではありません。

またカバに対する避妊薬から「裁判での法的人格をカバに認めるか」などの問題も他国では起こっており、私たちの身近にもこの問題は迫ってきています。

時間をかけて少しずつやっていくしかないのですが、一度変わってしまった現地の環境を元に戻すには途方もない時間がかかり、元には戻せない確率も多く含み、カバがコロンビアで増殖し地球上の生態系に異常を与えたという事実は変えることが出来ません。

近年、耳にすることが増えて来た「特定外来生物」

今回のカバの件はまさしくコロンビアからするとカバは外来生物となり、生態系を崩していることは間違いのないことですし、近隣には農村もあり人が襲われる可能性もかなりあります。

しかし「カバが悪いのか？」というわけではなく、カバはあくまで生き延びるために繁殖をただけ。

人が持ち込み、管理できなくなることで今回のような件が起きたのです。

今回は少し深刻な話になりましたが、これを機に少しでも皆さんに「カバ」のことだけでなく、周りの環境のことなどについても知ってもらえることが出来ればと思います。

(カバのトレーニング奮闘中 有川)

2024年2月15日

今年の節分、主役はチンパンジー？それとも鬼？

今年も節分イベントをおこないました。

今年のテーマは <チンパンジーの森を守ろう～みんなで鬼退治～>

はじめに紙芝居でチンパンジーのお話を聞きました。

野生のチンパンジーはどんな所に住んでいるのか、どんな暮らしをしているのかな？



(チンパンジー担当者による手作り紙芝居)

そして、今チンパンジーたちの生息数が減っていること、人間がチンパンジーたちが暮らしている森を破壊していることが原因なことを聞いていると…。

チンパンジーの展示場がなんだか騒がしくなっていました。何事かと、みんなで見に行くとそこにはかみね動物園のチンパンジーの森を壊していく鬼の姿が！



(展示場で暴れる鬼たち)



(福豆と落花生)

このままではいかん！ということで豆をまいて鬼退治です。



福は～うち！鬼は～そと！



(豆をまかれて落ち込む鬼たち)

鬼退治が無事に終わったと思ったら、みんなの前に鬼が登場！



(みんなで鬼の言い分も聞きます)

実は、鬼たちも生活するため仕方なく森を壊していたようです。

野生のチンパンジーが住むアフリカの人々も一緒です。

チンパンジーの住む森から伐採された樹木を使って家を建てたり、そこでとれた金属でスマートフォンが作られたりします。

現地の人にとってはチンパンジーの住む森にあるそうした資源が生活の収入源となります。

木材や様々な電子機器を使っている私たちにも全く関係ない話ではありません。

というお話を聞いた後に展示場にチンパンジーたちに出て来てもらい、みんなでまいた豆を食べている姿を観察しました。



すぐに何かをといっても難しいかもしれませんが、このイベントで何が出来るか考えるきっかけになればと思います。

まずは、使わなくなったスマホや電子機器をリサイクルBOXに入れるところから初めてみるのもいいかもしれません。

チンパンジーにもみなさんにも福が舞いこんできますように！



(今までの節分で1番気合の入った鬼たちでした。)

2024年2月10日

フサオマキザルお引っ越し大作戦！

空いた展示場のその後

昨年11月末にマンドリルのリエルがお引っ越しをしてから、マンドリルのいた展示場が空き部屋になってしまいました。

園長のお手紙に、「空いた展示場どうするの？」という質問がたくさん来ていたとの事なので、掲示物でも貼り出しましたが、ブログでもお伝えしようと思います。

その前に…。



去る1月15日はケンシロウの1周年忌でした。ありがたいことにお花をいただきましたので飾らせていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。展示場の前では1年経ってもなお、来園者の方がケンシロウの話をしているのをよく耳にします。それだけ愛されていた存在なんだと改めて思う日々です。

そしてリエルですが、新しい環境でリエルらしく過ごしているようです。なんだか強気な感じも否めませんが、上手に群れになじんでくれることを願うばかりです。

マンドリル展示場がフサオマキザル展示場へ

さて、本題に戻ります。マンドリルの使っていた展示場ですが、お隣に暮らすフサオマキザルに使ってもらうよう改修を進めていました。

展示場内のかみ砕かれた木を撤去し、使えそうな木は針金を締め直し落ちて事故にならないよう確認。また、当園のフサオマキザルたちはブラッザグエノンたちと犬猿の仲と言ってもいいほど過去トラブルが多発。上部の回廊をフサオマキザルが使うとなると、ブラッザグエノンの展示場や移動通路にフサオマキザルが大接近することに。接触をさけるため、板を敷いたり貼り付けたりして、お互いが怪我をしないように改修をしました。



(ベテラン飼育員方の手を借り喧嘩につながりそうな場所は板張り)

展示場だけでなく寝室も変わるので、寝室も新しい平板と木を入れました。

そしてここで感じるマンドリルのありがたさ。上部に空調設備のパイプが通っているのですが、それをいたずらされないようにするため、各寝室の上部には木の板が置かれています。マンドリルはそもそもいたずらしなかったのでしょうか、その木の板が固定がされていませんでした。

しかしこのままフサオマキザルを入れてしまったら大問題！過去フサオマキザルたちは固定されていたこの木の板を上手にずらして隠していた配管の断熱材をむしって遊ぶといった手の器用さを見せたのです。



こんなところに入ってせっせと固定をします。

全てはフサオマキザルの安全と設備を守るため。終わったころにはホコリとクモの巣まみれです（笑）

いざお引っ越し！

寝室の移動を1月31日に行いました。

網で捕獲して、サッと部屋の移動。

お父さんのフトシはしばらく健康診断をしていなかったなので、ついでに健康診断。犬歯の状態があまり良くないようなので、様子観察し、症状が出てきたら抜歯かな…、という診断でしたが概ね良好でした。



（左側：上顎。犬歯が怪しい状態…。茶色いのは色素沈着だそうです。）

新しい寝室に移動した初日。フトシと息子2頭はやや緊張気味。



(左：落ち着きないムサシ、右：緊張な面持ちのタケシ)

その反面、お母さんのユメは緊張もなく新しい環境もなんのその。今まではオスを気にして朝のバナナを遠慮がちに取りに来るユメでしたが、今はオスたちを退け、いの一番に取りに来るぐらい勢いがあります。さすが母。

3日ほど経つとこどもたちも寝室に慣れたので、元々マンドリルの展示場だったところへ出してみました。



突拍子もないことをしないかなとハラハラしながら見ていましたが、特に問題なく使ってくれています。

これから兄弟のいたずらやんちゃっぷりが発揮されるだろうとしばらく安心はできませんが、新しい環境、マンドリルのおさがりの給餌器や新しいもの、以前の展示場にはなかった回廊、今まで以上にたくさんの動きを見ることができるようになりました。



(左：運が良いと上からも見られる！ 中：新しいブイの給餌器を見つめるフトシ。 右：回廊を通り始めたムサシ)

様々な動きや表情を見せてくれるフサオマキザルをぜひご覧ください。

フサオマキザルの展示場跡は…？

フサオマキザルが移動し、以前のフサオマキザル展示場にはお隣のサバンナモンキーにお引っ越しをしてもらう予定です。

こちらも展示場と寝室を改修してからの移動になりますので、少しお時間いただくかと思えます。

展示場が変わり、フサオマキザルとサバンナモンキーの魅力が少しでも皆様に伝わりますように。

(フサオマキザルの軽快な動きがうらやましい申年のところ)

2024年2月5日

年賀状イベントを実施しました。

2024年もよろしくお祈いします！

今年も年賀状イベントを開催しました！

11月に園内3か所に応募できるところを設け、来園した皆様に動物たちへ年賀状をかいてもらいました。

応募総数500枚越え！

2024年最初の開園日1月2日に合わせて皆様にみてもらえるよう、どうぶつ資料館に掲示しました。



(裏も表もたくさんの年賀状)

今年もウサギやライオンが人気の中、募集した場所や干支が影響してか？(ヘビと龍って似てる…のかな?) 今年もヘビへの年賀状も多く集まりました。

たくさんの動物たちへ年賀状が来たので、少しご紹介しようと思います。